



6年2組 原級留置措置の授業

12月6日(火)3校時に、6年2組で校長先生が「原級留置の可否」をテーマに話し合う授業を行いました。きっかけは、11月25日の研究発表会の際、「留年は必要だと思いますか」というテーマでフリートークを行ったことです。この日の授業でも、原級留置(留年)について賛成か反対か考え、話し合いました。どちらか分からないという考えもありましたが、賛成、反対はほぼ同数でした。話し合いの後、校長先生からベルギーを中心に海外の教育制度について話していただきました。子供たちは、自分たちだったらと自分事として真剣に考えていました。



授業の感想から

- 留年は今までマイナスイメージだったけれど、かしこくなるために、分からないところを放っておかないために、自分から選ぶことがあると知って驚きました。
- 今日の授業で、国によって考え方や優しさの意味が違うのではないかと思います。日本は「原級留置→1人残る→いじめられるかも」などの精神的な理由から原級留置がされていません。オランダは「原級留置→勉強ができる」というこれからのことを考えて原級留置が行われています。ここから考えても日本とオランダの「やさしさ」は違うのだなと思いました。
- 前までも留年ということは賛成だったけれど、どこか周りの目が気になっていました。でも、今回ベルギーの方針を知って「国によってこんなに違うのだな」と感じました。日本の「周りとは違う＝恥ずかしい」という考えが悪いとは思わないけれど、ベルギーの「悪いことをやり直す＝どんな状況でも正しい」という考えはとてもよいなと思いました。
- この授業を生かして、本当の勉強する意味について考えていきたいです。
- 原級留置に反対の意見だけけれど、賛成の意見もすごく分かりました。
- 今日の授業で一番感じたことは、国によっての考え方が違うということです。留年という一つの事に対しても日本とベルギーで考え方が違いました。
- 今日感じたことは、みんな考え方が違ってその考え方を認められるってすごくすてきなことだなということです。
- 外国から見た「留年」と日本から見た「留年」では、意味が異なることを学べてとても楽しかったです。留年という制度は賛成なのですが、学校に取り入れられてしまうと、周りからの視線が苦しいし、勉強も手につきにくくなるのではないかと思います。だから、まず日本で「留年」に対する意識を変えられるといいなと思いました。

今年度最後のクラブ活動！

12月6日(火)に今年度最後のクラブ活動を行いました。今年度、8回の活動を行い、4年生から6年生まで異学年の仲間と交流を深めました。活動最後のこの日、天気も良く外で活動するクラブも含め、どのクラブもみんな楽しく活動することができました。



山口大学の留学生と国際交流！

12月1日(木)の3校時に、4年1組、5年1組と6年生が山口大学の留学生と国際交流を行いました。留学生の企画による活動をしたり、それぞれの国のことを教えてもらったりしました。グループ毎に分かれてレクリエーションを行った学級もあり、楽しく交流することができました。

